

平成 26 年度 県立中央高等学校学校関係者評価表（集計表）

評 価 項 目	評 価	評 価 者 か ら の 意 見 等
1. 本年度重点目標の達成状況についての自己評価は妥当か	(A) 妥当である (5) B おおむね妥当である C あまり妥当でない D 妥当でない	・国公立大学合格 20 名という数字に対して、「A：十分達成できている」と自己評価できなかったものと推察されるが、学校の取り組みは素晴らしいものがあり、数字に惑わされず、継続していただきたい。 ・全職員一丸となって、生徒の基本的生活習慣の確立、より良い学習環境の構築に精励された。
2. 学校の具体的目標及び具体的方策の達成状況についての自己評価は妥当か	(A) 妥当である (4) B おおむね妥当である (1) C あまり妥当でない D 妥当でない	・教科や学年によって、評価に偏りが見られるものの、それが現実を正しく表現しているものとして捉え、次年度の重点目標設定に活用していただきたい。 ・重点項目である進路指導における「中央メソッド」の具体的運用と確立に向けて努力され、目標も達成されている。
3. 学校は次年度への主な課題を把握しているか	(A) 十分把握している (3) B おおむね把握している (2) C あまり把握していない D 把握していない	・一部の教科で次年度の課題が示されていなかったが、全体としては課題を十分把握していると思われる。 ・次年度への課題は具体化されているので、是非とも課題達成を期待する。 ・目標達成するとともに、見いだされた課題について、常に検討している。
4. 学校の改善方策への対応は適切か	A 適切である (B) おおむね適切である (5) C あまり適切でない D 適切でない	・具体的方策の項目の中に、一部「体言止め」の表現が入っており、具体的な改善方策がわかりにくいところがある。 ・PDCA サイクルの確立、必要な改善点は速やかに行動できるよう体制を充実させる。 ・改善方策は今後更に分析がなされ、より具体的なものとなり、平成 27 年度に実施されると思うので、次年度の中央高校が楽しみである。 ・改善方策のあり方が消極的に感じる。

別紙様式 3

5. その他（各学校の状況に応じて設定） ※ 何かお気付きの点があれば，ご記入下さい。		・自己評価表そのものがたいへん読み易くなっている。 ・「達成状況及び次年度（学期）への主な課題」欄の記述が増えており，良い傾向にあるので，欄をもう少し大きくしてもよいのではないか。 ・各教科共に「基礎学力向上」又は「家庭学習定着」が必須課題。 ・生徒と共に保護者へも面談，進路説明会，懇談会等でさらに強く発しているとも良いのかと。ひいては進学結果につながると感じる。 ・目標設定において，数値で表せるものは，掲げて欲しい。 ・中央高が更に飛躍し，本校生徒を含む近隣の中学生のあこがれの高等学校になってくれることを望んでいる。 ・「知」の中央を目指していることは素晴らしいが，学力だけでなく，部活動による活性化も検討し取り組んでいただけるとありがたい。（本校生の運動部の受け皿になってほしいが・・・） ・「地域や中学校から信頼される～」目指す学校像であるが，周辺高校と比較しても，特に中央高からの情報提供が多いとは感じていない。むしろ，中央高よりも（生徒募集のためか）情報が多く出ている高校がある現状を，中央高としてはどう考えるのか？がんばってほしいと思っている。
---	--	--

※ 「学校関係者評価」は，学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは，各学校の生徒の保護者や，各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし，学校評議員も評価者に含まれます。